

ジョージ・オルチン記念音楽館 定礎式・献堂式

渡 辺 久 雄

正門から入って一〇〇メートルも進むと、道は音楽学部校舎の前あたりから、右方に大きくカーブして岡田山の山裾を登ってゆく。このカーブ道と別にほぼまっすぐな二本の近道がある。山路の方がより急坂であるが、これを登ると一気に岡田山の頂上に出る。人呼んで「オルチン・ロード」という。

ジョージ・オルチン師（一八五二—一九三五）は一八八二年（明治十五年）来日、宣教師として各地で伝道したが、一九〇六年から一九一八年まで神戸女学院の理事をつとめ、離日に際しては日本の讃美歌に関する貴重な資料である「オルチン・コレクション」を本学院に寄贈した。一九三二年（昭和七年）、岡田山の地に新校舎が建築されるとき、八〇歳の高齢にも拘わらず来日してデフォレスト院長の良き助言者として、校舎、庭園、樹木のレイアウトに協力したといわれ、「オルチン・ロード」の名もこの時に始まる。

この「オルチン・ロード」と向きあうようにして、ジョージ・オルチン記念音楽館が完成した。建物は百周年記念建築計画の最後の贈物であるが、施設として最高の内容を持っている。

さて定礎式・献堂式の行なわれた一九八八年十一月二十二日は、晩秋には珍らしく小春日和に恵まれた。定礎式は茂洋学院チャプレン司式のもと午前九時三十分始まり、原清理事長をはじめ学院関係者、工事担当者により定礎が行なわれた。

引き続き午前十時より新音楽館内のホールで献堂式が行なわれ、学院関係者、教職員、卒業生等により、式場は立錫の余地なき程の参列者で埋まった。配布されたプログラムは河北印刷株式会社によるデザイン・多色刷りの、豪華なものであった。司式は茂洋学院チャプレンにより、まず由緒ある讃美歌二六三番が歌われ、続いて司式者による聖書朗読（詩篇一二七の二）、祈禱があった。

献堂の経過については今村一之総務部長より「一九七〇年に本学百周年記念の一つとして議題に出され、一九八六年音楽学部よりの具体案の提示により、翌八七年五月、総額約五億円の工事が理事会で承認され、十二月着工、一九八八年十月完成に至った。ヴォーリズ博士が常に抱いていた設計思想を今日に伝え、それを今日の技術と材料で展開結果させた一粒社ヴォーリズ設計事務所の卓越した設計力、そしてそれを十二分に建築物としてまとめあげた竹中工務店の抜群の技術力、この両社に敬意を表したい」との報告があった。

岡本院長は式辞で「この記念音楽館は百周年記念事業の総仕上げの形で完成した。音楽学部の方々には長い間、待って戴いたが、完成してみると予想以上に素晴しい建物なので満足して貰えると思う。また本館設計の際のヴォーリズ博士の精神が見

事に受けつがれ、あたかも両者が同時に建てられたように全く違和感のないことは、ヴォーリス設計事務所と竹中工務店の協力の賜物である」と言い、ステンドグラスの製作者田中画伯もお礼を述べ、更に記念館命名の理由にふれた。

次に再びオルチン師ゆかりの讚美歌二一四番が歌われ、稲庭達、音川紘一両先生による披露演奏が行なわれ、次に原理事長によってヴォーリス設計事務所、竹中工務店に対する感謝状の贈呈があり、続いて祝電の披露の後に頌栄、祝禱、後奏があつて、献堂式は終了した。なお式後新記念館内の案内があり、参

列者は参観した。ま

た午前十一時よりデ

フォレスト館会議室

に於いて祝賀のパー

ティが開かれた。

記念式典を迎えた

喜びとともに、一昨

年十二月に亡くなつ

たラーソン先生のこ

とを思い出す。こよ

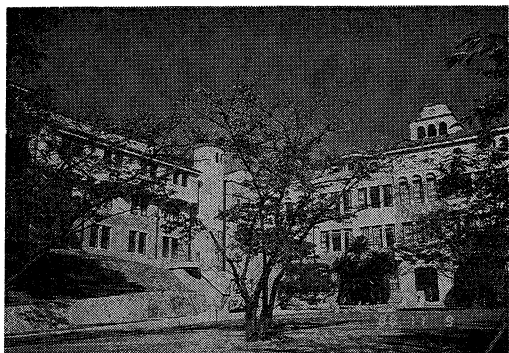
なく音楽学部を愛さ

れた方だっただけに

天上に在ってきつと

お喜びになっている

にちがいない。



左・記念音楽館 右・本館